

# 再生エネを地産地消

原発に代わるエネルギーを地産地消で循環させよう。脱原発と自然エネルギー政策への転換を求める「原発ゼロの会・大阪」は、地域の自然エネルギーを活用したまちづくりを目指す滋賀県・湖南市の取り組みを視察した。同行した矢部あづさ新聞部部長、南端理伸同部員の寄稿を紹介する。



湖南市概略  
滋賀県南部に位置し、人口5万5千人余り。特産品に弥平とうがらし、下田なす。

## 市が電力小売に参加

滋賀県湖南市は昨年5月、市が筆頭株主となる地域新電力会社「こなんウルトラパワー」を立ち上げた。電力小売りの全面自由化を機に、エネルギーの地産地消を進める新たな取り組みだ。

## 全国初の自然エネ条例

12年に成立した再生可能エネルギー「固定価格買い取り制度」に合わせて、市は「自然エネルギーは地域のもの」を基本理念に掲げ、全国初の「湖南市地域自然エネルギー基本条例」を制定。地域エネルギー室の池本和氏は、条例の目的について「行政・市民・事業者の役割を定めて、地



2013年に発電を開始した市民共同発電所「式号機」。105棟。地元企業も出資者として参加し、大型化が実現(写真：湖南市提供)

域が主体となった取り組みで地域の持続的発展に役立つ。この取り組みを進めるための人材・枠組みづくりが、行政に求められている」と語る。

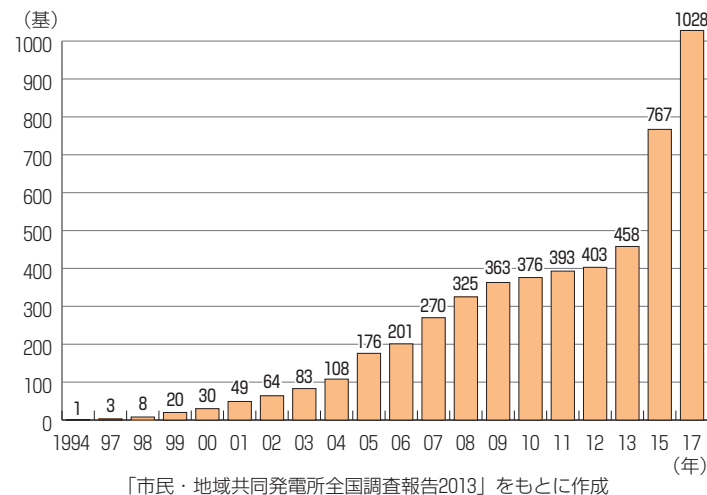
12年には、一般社団法人「コナン市民共同発電所プロジェクト」を設立。市民・地元企業などが出資し、太陽光などの再生可能エネルギーの生産と売電事業を運営する。

現在、同プロジェクトの太陽光発電所4機が市内で稼働中だ。同法人は、出資者への配当・元本償還を地域商品券で行うのが特徴だ。10万円の出資なら20年間で11万9000円の商品券を受け取れるという。昨年は300万円余りの商品券が流通した。代表理事の溝口弘さんは、「商品券なら地域経済の活性化と電気の域内循環に貢献できる。共同発電所の発電量は、需要から見れば微々たるものだが、取り組みが幅広い市民に再生可能エネルギーを身近に感じてもらおうきっかけになれば」と語る。

条例は理念法だが、大きな効果をもたらしつつあ

## 行政と住民が連携 市民共同発電所

市民・地域共同発電所数の推移



「市民・地域共同発電所全国調査報告2013」をもとに作成

る。市内で大規模太陽光発電所の設置を計画していた民間企業が、条例の趣旨を汲み取って、市民・行政とタイアップし市民共同発電所事業に変更した事例はその一つだ。

## あるものさがし

湖南市は、戦後、糸賀一雄氏らが作った知的障がいの人たちの施設「近江学園」が1971年に移転してきたことを背景に、障がい者の自立を支援するまちづくりを目指してきた。新たな取り組みとして、障害者の芸術活動を振興する「福祉ツーリズム」にも力を入れている。

いま、市は「地域のあるものさがし、あるもの活か

し」をキーワードに「再生エネ」「福祉」「特産品」の3分野を連携させた地域振興を推進。その中心を担うのが再生可能エネルギーだ。市民共同発電所の「初号

## 自治体の役割

太陽光や風力などの再生可能エネルギーの特徴は、発電・供給は小規模分散型になること言われる。一般的な住宅の屋根にある太陽光パネルは3〜4割、これで原発1基と同じ100万語程度にしよつたら数十万世帯分の屋根が必要とされる。溝口代表理事は「再生可能エネルギーの普及と推進には広範な市民が主体となる必要がある。行政と住民、企業がタッグを組んで住民の意識を変え、参加を促す地道な取り組みが重要だ」と語る。

湖南市では行政担当職員が積極的にアイデアを提案、具体化に向け市民に参加を呼びかけ、取り組みを広げてきた。自然エネルギーの普及に自治体が果たす役割は小さくない。

## 貧富の格差は人類的課題

西淀川区・篠部正夫



ヒトが食物連鎖の頂点に立ち、今や相互殺戮する他に過剰繁殖を抑えられない観がある。これまでに地球上の生物は、多様化によりこの過剰繁殖に歯止めを掛けて命を繋いできた。

かつてメタンを排泄物とする単細胞生物が地球を寡占して地球環境を激変させ、生命絶滅の危機にさらされたことがあった。他方で、生命種の多様化から誰かの糞が誰かの食料になって、バランスを保ち、命を育むこの惑星を保持してきた。

視点を狭く絞っても、現在のヒトの課題は、貧富の格差の拡大を抑えることである。戦争もテロも力による抑制が効かず、より殺戮効率の「良

い」方向へ進化するだけで、解決の目途がつかない。犠牲のみ大規模になることは十分経験したはずだが学習効果は見えてこない。

戦争もテロも貧困・格差拡大を最大の原因に据えてその是正を図るべきだが、一方で詐欺や犯罪と言えらるるまで含めて経済活動の自由のもと、利潤至上主義の資本家は、有利な税制を求めて諸外国を渡り歩く。

受け入れ側の国は、有利な税制を餌に外国企業を誘致して自国の経済発展を図る。一国で経済格差の拡大を防止する税制をひいても、他国へ脱出するから地球規模で協調するしか方法はない。更に視野を絞って、国民に公平な世界に誇る皆保険制度下の歯科界も例外ではない。競争社会の成功者こそでない人との格差は広がり、高額の治療機器を導入してセラブ患者にリスクの高く未成熟の最先端治療を提供して高収入を目指す歯科医もいる。

企業も歯科医も一団体として大きな世の流れの中で生き抜こうとしているが、地球上の共通の課題を「生物として意識すれば、生き残る道を見つければ簡単に絶滅はしないだろう。」

## 会員投稿

### 万華鏡



高槻市・久松 聡

新しき魚の水路に夏の月  
短夜も目覚めすすき課題解け  
妻と行く黒門市場夏帽子  
祇園祭胸に高鳴る笛と鉦  
ついでに夏満月や日は西に

海岸の遠花火見ゆる無人駅  
城跡の往にし世を今油照り  
片陰もななくうつろなる口とは  
白杖を習う雑踏秋あつし  
秋の目を返すビル窓万華鏡